

6. 事業内容	今般の事業は第3年次であるが、当初の計画を以下の通り一部変更して実施する。 ① 生徒（トレーナー）のトレーニングと保健委員会の設立・活性化 ◆変更点：新たにトレーニングを受けた保健委員会のフォローアップに加え、過去にトレーニングを受けた保健委員会のフォローアップに関する記載を追加。また、活動の持続性を担保する仕組みづくりとして、保健委員会の活動回数とフォローアップの実施回数を明記した。 （変更前）「2学期目は、保健委員会により行われる活動（壁新聞作成、講習や懲戒でのスピーチ等）のフォローアップが2週間に一度、JVC および MRS チームによって行われる。」 （変更後）「1学期目に新たにトレーニングを受けた保健委員会は、2学期目に少なくとも2週間に1回（1年に計6回）、健康に関する活動（壁新聞作成、講習、朝会でのスピーチ、他校や住民と連携した健康キャンペーン、音楽やドラマを使った健康促進活動等）を行う。また、過去2年間にトレーニングを受けた8つの保健委員会は、少なくとも2週間に1回（1年に計12回）、健康に関する活動を行う。JVC および MRS チームは、年間を通じて2週間に1回、保健委員会により行われる活動のフォローアップを行う。フォローアップのためのミーティングの場では、隔回に保健委員会の生徒たちの知識レベル、生活態度の改善度、自主的な活動の質などを確認・評価するために、フォーカスグループ・ディスカッションを実施する。」 ② 学校教師に対する健康教育に関するトレーニング ◆変更点：活動の持続性の観点から、教師のモチベーションと知識レベルを高めるため、フォローアップの回数を増やす。 （変更前）「JVC および MRS チームは、トレーニング終了後も各学校を約2回ずつ訪問し、」 （変更後）「JVC および MRS チームは、トレーニング終了後も各学校を月1回程度訪問し、」 ③ 学校に対する健康に良い環境づくりの指導 計画に変更なし 【活動1】活動②において学校教師たちに対し、学校環境のトレーニングを行う。また、各校の衛生・安全環境の観察・インタビューを行い、健康に良い安全な学校環境に関して指導する。学年度を通じ、JVC と MRS チームは学校環境のフォローおよび助言を行い、1学期終了時に中間モニタリングを行う。学年度終了時には、事後観察・インタビューを行い、結果を測る。45校が3年間をかけてフォローされる。 【活動2】MRS チームは、各学校に救急法を行える責任者をおけるようになることを目指し、②の教師に対して、追加15時間の救急法トレーニングを実施する。対象となるのは、毎年20校20人（3年で60校60人）。 ④ 生徒・幼稚園児に対する健康診断の実施とフォローアップ体制の指導 ◆変更点：対象となる幼稚園数を、現状に合わせて15から20に変更する。 （変更前）「健康診断の対象となるのは、毎年16校約500人の生徒、15の幼
---------	---

稚園約 700 人の子ども（よって、3 年で約 1,500 人の生徒と約 2,100 人の子ども）。視力検査の対象となるのは、24 校約 800 人の生徒（よって、3 年で約 2,400 人の生徒）。」

（変更後）「健康診断の対象となるのは、最初の 2 年間は、毎年 16 校約 500 人の生徒、15 の幼稚園約 700 人の子ども。3 年目は、毎年 16 校約 500 人の生徒、20 の幼稚園約 700 人の子ども（よって、3 年で約 1,500 人の生徒と約 2,100 人の子ども）。」

⑤ 学校生徒、幼稚園児、その母親たちに対する健康教育

◆変更点：第 3 期は、学校保健委員会・教師・救急委員会等の自主的な活動のフォローアップに集中するため、健康教育の対象数を減らす。

（変更前）「対象となるのは、47 校約 16,000 人の生徒（よって、3 年で約 48,000 人の生徒）、15 の幼稚園約 900 人の子ども（よって、3 年で 2,700 人の子ども）。

（変更後）「対象となるのは、最初の 2 年間は、毎年 47 校の約 16,000 人の生徒と、15 の幼稚園の約 900 人の子ども。第 3 期は、学校保健委員会・教師・救急委員会等の自主的な活動のフォローアップに集中するため、47 校の約 8,000 人の生徒と、15 の幼稚園の約 600 人の子どもが対象となる。（よって、3 年で約 40,000 人の生徒、2,400 人の子ども）。」

⑥ 地域住民に対する救急法トレーニングと、地域での救急委員会の設立

◆変更点：救急委員会の活動の持続性を高め、MRS チームによるフォローアップの仕組みを強化するため、フォローアップの詳細を追加した。

（変更前）「なお、MRS チームは救急委員会設立後、その活動のフォローアップを行っていき、救急委員会は MRS の指導の下地域でのボランティア活動を行っていく。」

（変更後）「JVC および MRS チームは、新たに設立された救急委員会について、その設立後、活動のフォローアップを半年間かけて月 1 回行う（1 年間で計 6 回）。過去 2 年間に設立された救急委員会については、1 年間かけて月 1 回のフォローアップを行う（1 年間で計 12 回）。各救急委員会は、JVC と MRS の指導の下、地域でのボランティア活動を行っていく。」

⑦ 地域住民に対する健康教育と健康診断の実施

◆変更点：ベドウィン集落や隔離された地域での医療事情の悪化と住民からの要望の高さに鑑み、第 3 期は健康診断の回数と対象数を増やす。

（変更前）「MRS チームは、ベドウィン集落や隔離された地域などにおける健康診断を約 20 回（各約 20 人参加、計約 400 人参加、よって 3 年で約 60 回、計約 1,200 人参加）、および必要に応じて医薬品を処方する。」

（変更後）「最初の 2 年間は、ベドウィン集落や隔離された地域などにおける健康診断を 1 年間に約 20 回（各約 20 人参加、計約 400 人参加）、および必要に応じて医薬品を処方する。3 年目には、村落での医療事情の悪化と住民からの要望の高さに配慮し、1 年間に約 24 回（各約 30 人参加、計約 700 人参加）の健康診断を実施し、必要に応じて医薬品を処方する（よって 3 年で約 64 回、計約 1,500 人参加）。」

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	① これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） パレスチナ自治政府、エルサレムのワクフ宗教省、学校・幼稚園、地域社会施設等の協力を得て、学校生徒や教師や地元青年へのトレーニングを実施し、トレーニングを受けた人々による自発的な活動も行われた。同時に、学校や地域社会施設等での健康教育、健康診断、巡回診療、サマーキャンプを実施し、住民や子どもたちの健康管理と健康に対する意識向上に貢献した。本事業の期間に、学校環境の向上、保健委員会の活性化、救急委員会の自主的な活動、教師や生徒の健康教育への積極的な参加が観察され、人々の健康を守り健康を促進させるための仕組みづくりが進んだ。 ② これまでの事業を通じての課題・問題点 パートナー団体の給与体系やエルサレムの物価高騰などの理由により、医師の給与がエルサレムの一般的な医師の給与に比べて極端に低くなっているため、医師の交代が相次いだ。 ③ 上記②に対する今後の対応策 東エルサレム以外の西岸地区の物価水準では、パートナー団体の給与は相対的に低くないため、西岸地区から医師を新たに雇用して解決を図ることで合意がなされた。西岸地区の新しい医師がエルサレムへの入域許可を取得できたため、この医師を雇用する予定である。
8. 期待される成果と成果を測る指標	（＊以下の赤字は、第2期の指標からの変更箇所） ①学校保健委員会が設立され、健康への意識を促進させられるようになる ・ <u>4校（3年で12校）</u>の学校に保健委員会が設立される ・ <u>40人（3年で120人）</u>の保健委員会のメンバーが他の生徒たちに教えらる知識と技術を習得する（トレーニングを受けた生徒の<u>80%以上</u>が、<u>70%以上</u>の健康に関する正しい知識を得る）。また、保健委員会のメンバーとなった生徒の<u>90%以上</u>が、トレーニングの<u>80%以上</u>に出席する。 ・ 保健委員会が健康に対する意識を高める活動を学校生徒に対し行えるようになる。過去にトレーニングを受けた保健委員会は、少なくとも<u>2週間に1回</u>の健康に関する活動を行う（1年間で計12回）。新たにトレーニングを受けた保健委員会は、トレーニング終了後の2学期目に、少なくとも<u>2週間に1回</u>の活動を行う（1年間で計6回）。 ・ JVCとMRSチームは<u>2週間に1回</u>、保健委員会のメンバーとのミーティングを開催し、保健委員会による活動のモニタリングとフォローアップを行う。また、2学期の終わりに、保健委員会の生徒とのインタビューまたはフォーカスグループ・ディスカッションを行い、活動の質や成果を確認する。さらに、保健委員会の実施した活動に参加した教師と生徒にもインタビューを行い、活動の成果（output）や効果（outcome）等を確認する。 ②学校教師が、生徒たちに健康教育を行えるようになる ・ <u>20校（学校15、幼稚園5）（3年で60校）</u>の教師たちが、生徒たちに特定のトピックに関して教えらる知識と技術を習得する（トレーニングを受けた教師の<u>85%以上</u>が、<u>80%以上</u>の健康に関する正しい知識を得る）。また、トレーニングに参加する教師の<u>90%以上</u>が、トレーニングの<u>80%以上</u>に出席する。 ・ 学校教師たちが、特定のトピックに関して健康教育を生徒たちに対し行え

るようになる（それぞれの学校で教師たちが5セッション、幼稚園で4セッションの健康教育を実際に行う）。

- ・ JVC と MRS チームは毎月 1 回、トレーニングを受けた教師と面談し、教師によって実施された活動をフォローアップするとともに、今後の活動予定を確認する。また、2 学期の終わりに、トレーニングを受けた教師および教師によって実施された健康教育に参加した生徒とのインタビューまたはフォーカスグループ・ディスカッションを実施し、活動の成果（output）や効果（outcome）等を確認する。

③学校が、健康に良い学校の環境を保つ重要性を意識できるようになる

- ・ 20 校（15 の学校と 5 の幼稚園）（3 年で 60 校）の学校教師たちが、環境が与える健康に関する影響についての知識を得る（トレーニングを受けた全ての教師が、80%以上の学校環境に関する正しい知識を得る）

- ・ 20 の学校（15 の学校と 5 の幼稚園）（3 年で 60 校）に、応急処置を担当する教師がいるようになる

- ・ 45 校の学校教師たちが、それぞれの学校の環境における問題点や改善すべき点について理解する（学校に対する事前事後の観察およびインタビュー）

- ・ 1 学期の初めと 2 学期の終わりに MRS チームによって実施される、学校の環境に関する事前／事後の観察において、「良好」という回答の割合が 10% 以上上昇する。

④学校教師が、生徒・子どもの健康問題をフォローアップできるようになる

- ・ 学校教師が、医師により紹介された問題についてフォローアップすることの重要性に対する意識を向上させ、紹介された問題の 90%以上が、紹介された後にその問題を適切にフォローされるようになる。視力と肥満の問題については生徒や両親が深刻に受け止めず、専門医の診断を受けるケースが少ないという事情を考慮し、3 年目は、紹介された問題の 80%以上が、紹介された後にその問題を適切にフォローされるようになる。

⑤学校生徒、子ども、親たちが健康に関する知識を得られるようになる

- ・ 最初の 2 年間は、毎年約 16,000 人の生徒および約 900 人の幼稚園児が健康に関する知識を得られ、80%以上が、70%以上の健康に関する正しい知識を得られるようになる。3 年目は、約 8,000 人の生徒および約 600 人の幼稚園児が健康に関する知識を得られ、80%以上が、70%以上の健康に関する正しい知識を得られるようになる（よって、3 年間で 40,000 人の生徒と 2,400 人の幼稚園児）

- ・ 学校生徒および幼稚園児の親たち約 475 人（3 年で約 1,425 人）が健康に関する知識を得られる（参加した母親たちに対するインタビュー）

- ・ 学校生徒を対象に実施される、生活態度の変化を図る事前事後テストにおいて、平均点が 5%以上上昇する。

⑥東エルサレムの青少年の間に、救急委員会が設立される

- ・ 約 75 人（3 年で約 225 人）の地域社会施設や地元大学の青少年のグループが、救急法の知識と技術を得られ、80%以上が、70%以上の救急法に関する正しい知識と技術を得られるようになる

	・救急法を習得した上記青少年の中から、アクティブなボランティア <u>10 人</u> が、<u>2 つ</u>（3 年で 6 つ）の救急法委員会を設立する。救急委員会は地域の救急法のニーズに応える活動を自主的に行う（救急委員会メンバーの活動モニタリングおよびインタビュー）。 ・JVC と MRS チームは、新たに設立された救急委員会の活動を、その設立後の半年間、少なくとも<u>毎月 1 回</u>フォローアップし、活動を評価する（1 年に計 6 回）。最初の 2 年間に設立された救急法委員会については、年間を通じて少なくとも<u>毎月 1 回</u>フォローアップし、活動を評価する（1 年に計 12 回）。 ⑦地域住民が、健康に関する知識と健康に対する意識を得られるようになる ・<u>約 450 人</u>（3 年で 1,350 人）の地域住民が、健康と衛生に関する知識を得られ、80%以上が、70%以上の健康と衛生に関する正しい知識を得られるようになる ・最初の 2 年間は、<u>毎年約 400 人</u>（2 年で 800 人）の地域住民が、健康診断および個人カウンセリングを通し、自らの健康状態に対する意識を向上させることができる。3 年目は、<u>約 700 人</u>の地域住民が、健康診断および個人カウンセリングを通し、自らの健康状態に対する意識を向上させることができる ・<u>約 900 人</u>（3 年で 2,700 人）の青少年、子どもたちが、地域社会施設の行うサマーキャンプでの健康教育で、健康と衛生に関する知識を得られる
--	---